

## 20. 課題・問題

新学習指導要領では、総合的な学習の時間のねらいを次のように示しています。「自ら課題を見付け、自ら学び……」「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に……」

総合的な学習の時間での「自分の課題」を見つけることと、そこまで至るまでの醸成期間は、最も重視されるポイントです。また、追求場面での粘り強い問題解決は課題究明の核となります。「課題と問題」言葉自体は大変似ている響きがありますが、使い方は異なります。

### 課題・問題とは

平成12年度 本連盟では、「課題」を次のように定義した。

一人一人が「もっとよく知りたい」「実感したり深く知ったりするためにやってみたい」と思う内容のことであり、追求に向かう“始めの一歩”を含むもの

さらに具体的な場面で次のような条件が考えられる。

- ・内容や学年発達によっては、小集団が同じ課題を共有することもある。
- ・課題が生み出される時期、明確になる時期には、個人差がある。
- ・追求途中で質的に変化することもある。
- ・小集団の追求活動の中で、課題の方向に違いが出ることもある。
- ・追求の“始めの一歩”を明確にするには、子供に力がつくまで、積極的な個別支援が必要

そして問題とは、次のようなことであると考えられる。

課題を追求する課程で生じる疑問や困難など、課題追求をする上で活動を阻むことがらを言う。問題の表れ方は個々によって異なる。

### 実践するにあたって

課題を見つけるためには、様々な方法が考えられます。例えば①広いテーマを与え、そこからウェービング法によって構造化し、選択・決定する場合、②子供が関心ある活動をさせて、その中から課題をつかませる場合、③教科として取り組んでいる内容を発展させることから課題につなげる場合、④自由研究のようにフリープランで課題を見付ける場合など、まだまだあります。

子供の願いだけが先行して、見通しがともなわず途中で活動を回避しないように個別支援が必要になります。やりたいことは何か、まずは何をどのように行いたいのか、それは可能なのかを見とてあげることが大切です。